

令和 7（2025）年度関西医科大学大学院看護学研究科

博士前期課程

入学試験問題 夏期

専門科目（精神看護学）

問題 1 希死念慮のある患者への支援について、以下の設問に答えなさい。

- 1) 自殺の危険因子を 3 つ以上挙げ、説明しなさい。
- 2) 希死念慮のある患者への支援について記述しなさい。

問題 2 災害や事故に遭遇した人への精神看護について、以下の設問に答えなさい。

- 1) サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）について説明しなさい。
- 2) 災害や事故に遭遇した人への直接ケアについて、具体例を示しなさい。
- 3) こころのケアを行う際、配慮すべき点について述べなさい。

令和 7 年度 (2025) 関西医科大学大学院看護学研究科
博士前期課程 入学試験問題 夏期 専門科目 (精神看護学)
出題の意図および解答例

問題 1

【出題の意図】

希死念慮のある患者は生命の危機的状況にあり、自殺企図の予防と安全の確保は精神看護における最優先課題である。そのため、自殺の危険因子の的確なアセスメント、および心理的危機にある患者への適切な関係性の構築と危機援助法について、看護職として必要な基礎的知識と支援方策を問う。特に、自殺の危険因子の正確な把握、心理的危機援助法の理解といった、臨床で求められる精神看護学のアセスメント力とケアの方向性を評価する。

【解答例】

1)

自殺企図歴
精神疾患の既往
サポートの不足
喪失体験
虐待体験

2)

※TALK の原則

T : Tell はっきりと言葉に出して相手を心配していることを伝える。

A : Ask 死にたいと思っているかどうかを率直に尋ねる。

L : Listen 死にたいほどつらい相手の気持ちを傾聴する (聞き役にまわる)。

K : Keep safe 危険と判断したら本人の安全を確保する (適切な対処 : 専門家受診など)。

問題 2

【出題の意図】

予期せぬ災害や事故により精神的危機に直面した人に対し、適切な時期に適切な精神看護を提供するための実践的知識を問う。具体的には、初期介入として最優先されるサイコロジカル・ファーストエイド (PFA) の原則と、中長期的な回復を促す直接ケアの理解を評価する。さらに、こころのケアを実践する上で対象者にすべき配慮点や倫理的態度について問う。

【解答例】

1)

予期せぬ災害や事故により危機的出来事に直面した人に対し、話をきき、安心させ、こころを落ち着けるように手助けをすることや、水や食料の確保、安全な場所への案内などの情報やサービス、社会的支援を得るための手助けをすることである。こころの応急処置のことで、専門的なカウンセリングや治療ではない。

見る（Look）、聴く（Listen）、つなぐ（Link）の3つの行動原則が基本である。

2)

- ・ ストレスケア（リラクセーション、足浴、マッサージ、タッチング、体操など）
- ・ 認知行動療法（発想の転換、とらわれているこだわりから認知や視点を変える）
- ・ 集団精神療法（語りの場を設定し、感情発散と表出、感情の共感）

3)

- ・ 無理に励まそうと言葉をかけなくてもよい。
- ・ 大切なことはその場を離れないこと。ただそばにいたことが、人々に安心感を与える。
- ・ 無理に被災当時の話を聞こうとしない。詳細を語らせない。
- ・ 批判しない、判断しない、話の主導権を握らない。
- ・ 思いこみで決めつけない。
- ・ 不正確な情報を提供しない。